

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101174		
法人名	特定非営利活動法人 大瀬戸福祉サービス		
事業所名	グループホーム わらび苑	ユニット名	
所在地	長崎県西海市大瀬戸町瀬戸樫浦郷1468番地		
自己評価作成日	平成29年2月20日	評価結果市町村受理日	平成29年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成29年3月15日	評価確定日	平成29年3月22日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは開設から17年間、認知症の人が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう認知症人やその家族を支援してまいりました。また、今まで培ってきた認知症ケアのあり方についても地域や関係機関等に提供すると同時に認知症の人やその家族への支援を協働して取り組んでいます。職員もこの2年間変動もなく入居者と顔見知りの関係が続いています。当ホームは常に地域の課題を考え、その課題解決に向けてグループホームを活用できるような新しい地域貢献事業を考えています。“やれる所がやる”の精神でグループホームの新たな活用を図っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム“わらび苑”は、長年“人との関わり(認知症ケア等)”の在り方を探求してこられた。『住み慣れた地域で暮らし続けられるよう支援するため「みんなで、いっしょに、ゆっくり、たのしく!』という理念を大切に、ご利用者の行動の背景にある真意に近づけるように努めてこられた。ご利用者の方々は“人生の大先輩”であり、リビングから見える空や雲の流れを見て、明日の天気を教えて下さったり、うぐいすの鳴き声(下手さや上手さ)を聞き分けられ、季節(春)の到来の時期を予測して下さり、職員は尊敬の思いで、ご利用者から色々な事を教えて頂いている。28年度は“ホームの今後”を考える大切な時期に入り、ご利用者の居室を6部屋にする事を決断された。日勤帯は変わらず職員が3名勤務し、楽しいレクやリハビリを行うと共に、季節の花などを鑑賞できる環境は作られている。今後も残りの3部屋の使用方法を検討されており、更なる地域貢献の場所として活用していく予定である。全てをポジティブに、良き“チャンス”の機会と捉え、常に前向きに歩かれているホームであった。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「みんなで、いっしょに、ゆっくり、たのしく」の理念を管理者と職員全員は理解・共有し、認知症の人が住み慣れた地域で生活できるように実践しています。	理念の中の「みんなで、いっしょに」を大切に、1日2回の体操やレク等が行われている。理念の中の「ゆっくり」では、ご利用者個々のペースや能力を大切に「待つケア」が行われ、できる事や役割(花の水やり、新聞折り等)を担って頂き、日々「たのしく」過ごされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭り、夏祭り、敬老会、中学生、保育園児や学童クラブ児童の来苑など地域の方々幅広く日常的に交流している。また、毎年老人会や婦人会からタオルの贈呈を受けて交流している。	地域の方からの信頼も厚く、理事長等が相談に応じている。お寺の花祭りに参加し、甘茶を飲まれたり、琴平神社の春の祭礼では主催者の方が席を用意して下さっている。子ども達との交流も楽しまれており、中学生等への支援内容の検討を続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族介護教室や各種団体の認知症に関する研修会等への職員派遣、また事業所独自の出前教室の開催などを通じて今までの実践を地域のために活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の運営状況や自己評価・外部評価への取り組みや結果報告、サービス提供状況説明及び地域の課題等の意見交換等を行ってサービス向上に活かしている。	2カ月に1回開催し、ご利用者も参加して新年会が行われたり、今後のホーム運営に関する報告も行われた。日々の取り組みや災害対策、地域の高齢者の情報、介護保険やその他の関連制度に関する情報共有も行われ、良き情報交換の場になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	代表者が市の高齢者福祉等に関する各種委員長を務めており、日頃から情報交換できる関係を構築しており、地域の認知症対策なども協働して取り組んでいる。	理事長は地域の方からの相談も多く、必要に応じて市役所の担当者に繋いでいる。西海市の子ども達から高齢者全般に関する必要な支援を見極め、「前例がない」取り組みを含めて、市と協力して実現に向けた話し合いを続けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者と全職員は身体拘束の弊害を理解しており、開設当初から如何なる場合でも身体拘束しないケアを実践している。	ご利用者には自由に過ごして頂き、穏やかに過ごされている方が多い。ご本人の不安に寄り添い、幻覚妄想等が見られている時は専門医に相談し、薬の調整やアドバイスを頂いている。「身体拘束は虐待。例外はない」という方針を職員全員で共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関することは職場内外の研修で学ぶ機会があり、本人や家族が虐待と思えば虐待になるとの考えから、事業所内での虐待が見過ごされれないよう注意している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度については職場内研修で学ぶ機会があり、特に、権利擁護については日常生活自立支援事業を実施している社会福祉協議会につないで活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時の契約書や重要事項説明書は、利用者や家族がわかりやすいように説明し、納得されてから締結するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族などから不安や疑問点を聞けるような関係づくりを日頃から心掛けており、意見や要望等は積極的に運営に反映できるようにしている。	家族の面会時は職員から声かけし、日々の暮らしぶりを報告している。「元気でいてほしい」「ホームで長く暮らしてほしい」等の家族の思いを理解し、日々の健康管理に努めている。ご本人の最適な住まいの検討も行われ、家族との話し合いを続けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや勉強会等で出された職員の意見・提案で運営に反映できるものについては、反映させるようにしている。	ホーム運営に関する説明があり、職員も納得して頂いての異動が行われた。現在は6人のご利用者になっているが、昼間は職員3人体制を継続されており、ほぼ馴染みの職員で生活支援が行われている。理事長やホーム長も職員の頑張りを高く評価している。	ご利用者が6人になり、空いた3部屋を地域貢献の場や職員の研修室等として活用予定にされている。系列ホームの職員も一緒に、以前行われていた研修を再開し、職員全体の更なるレベルアップに繋げていく予定である。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場内で経験年数に応じた研修会を実施したり、日頃の勤務態度などを総合的に判断し、職員が向上心を持って働けるよう職場の環境整備に心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が働きながら学べる環境整備やその能力に応じた研修会等への参加を促し、その能力向上が図れるような運営を心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西海市福祉施設連絡協議会に加盟しており、同業者との交流や勉強会の機会があり、活動を通じて質の向上を図っている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に本人や家族及び関係者等から意向を聴き取り、本人が安心して生活できるように言葉使いや態度に注意しながら本人との関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族の思いや要望などを聴き取り、家族が安心できるような対応を心がけ、家族との良い関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス提供時に本人と家族が望むサービス内容を聴き取り、本人に必要なサービスを見極めながら提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に暮らすことを考え、声かけの言葉使いや態度等について人生の先輩として接することを大切にして、常に本人から学ぶ姿勢を持ち、良い関係を築けるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日々の暮らしを報告したりして家族と本人の関係を大切にしながら共に支えて行ける関係づくりを大切にしながら取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの人や場所を大切にし、その関係が途絶えないよう家族等と協力しながら支援に努めている。また、馴染みの人が気軽に来苑できるホーム内外の環境整備に心掛けている。	農家の方も多く、田畑巡りをしている。漁をされていた方もおられ、海浴いをドライブしながら、海の波の状態や天候の予測をして下さっている。家族とお寺参りに行かれたり、ご主人の法要に行かれる方もおられ、家族が馴染みの方を連れて来て下さり、居室で団欒されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者個々が孤立しないで互いに楽しい暮らしが出来るよう入居者同士が関われる場面を大切に、職員が仲介役となって支え合えるよう支援している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居等によりサービス利用が終了しても家族等との関係が途絶えないように、事業所行事への声かけや相談等にものれるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話やコミュニケーション記録簿等から一人ひとりの希望や意向が把握できるよう心掛け、時間が空けば入居者の隣に座り、話しかけたりして、少しでも思いに近づけるようにしている。	団楽時や入浴時に一緒に会話をしたり、家族の面会時に情報を頂いている。ご本人との会話や入居者同士の会話から聞かれた言葉を“コミュニケーション記録簿”等に記録し、職員同士で共有している。日々の喜怒哀楽を把握し、言葉かけに留意しながら、真意を把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の生活歴や暮らし方は、入居時に家族や本人から聴き取り、入居後は家族や日々の会話、コミュニケーション記録簿等を活用して把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の会話や表情・態度からその日の心身状態が把握できるように心掛けており、職員がその日の変化に気づけるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人との日頃の関りや家族の思い、関係者からの情報、職員の気づき等を集約し全職員でアセスメントを行い、本人を中心に据えた現状に即した介護計画を作成している。	センター方式(暮らしの情報シート等)を活用し、「できること」「わかること」等を把握している。各職員がアセスメントした内容を全職員で話し合い、主治医からのアドバイスを頂いている。「布団の片付け」「新聞折り」等の役割と共に、「地域のお祭り」等も盛り込まれている。	今後も更に、ご利用者の有する能力(できる事、できそうな事等)をアセスメントし、下ごしらえ(魚をさばく等)や配膳、下膳、洗濯物たたみ等の役割を計画に追加すると共に、ご利用者個々の日課を3表に記入していく予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別日誌、業務日誌、夜勤日誌、コミュニケーション記録簿等で本人の日々の様子を全職員が共有しながらモニタリングを実施して介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時その場面で生まれるニーズを的確に捉えながら本人や家族が望むサービス内容について全職員で話し合い柔軟なサービス提供に取り組んでいる。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日頃から本人の心身の状態を考えながら家族と共に地域資源を活用して楽しく暮らすことで本人の力が発揮できるような場面づくりを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前からの「かかりつけ医」で受診できるようにしており、通院介助を行うことで「かかりつけ医」との連携を図っている。受診結果は、その都度家族に報告している。	職員の観察力もあり、早期対応に繋げている。職員は処方箋の注意事項を確認し、薬剤師からの指示も共有している。必要に応じて日中は往診を受けられる事ができ、歯科医の訪問もあり、職員の安心になっている。緊急時の対応方法も家族に確認している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関、本人の「かかりつけ医」の看護師と日々の関わり状況や気づき等の情報を提供して本人が適切な受診や看護を受けられるよう心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は、リロケーションダメージを防ぐため病院関係者と情報交換をしながら早期に退院できるような関係作りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の終末期のあり方については、医師や家族等と話し合い事業所が「出来ること」「出来ないこと」を確認し合って方針を共有している。本人、家族等の死生観を大切にしながら支援している。	24時間の医療連携が困難であり、入居時に「終末期ケアは行っていない」事を伝えている。「最期は病院へ」「最期は家に帰りたい」「できる限りホームで」等の要望を伺い、終末期の対応を主治医等と話し合い、関係者全員で共有している。「1日1日を大切に」と言う思いで、日々の体操や歩行訓練を継続し、重度化予防に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生に備え、普段から状況把握と体調等の変化に気づけるような対応を心掛けており、全職員が初期対応が的確に行える体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災に対する初期対応や避難訓練は消防署と定期的実施している。地域で災害が発生した場合に備えて「防災計画」も整備しており地域の避難場所・避難地も全職員周知している。また、地域での災害発生時には当事業所も避難場所として活用できることを地域に発信している。	運営推進会議で防災対策(避難場所等)が検討されており、年2回、系列ホームと合同で防火訓練(夜間想定)を続けている。日々の防災チェックを続けると共に、各機関(西海市、消防署、消防団、西海市社会福祉協議会、西海市福祉施設連絡協議会、地域住民等)との協力体制もあり、西海市と協力して備蓄の検討も行われている。29年度は消防署との合同訓練が検討されている。	災害に備えて、カセットコンロ、米、缶詰は常時保管している。今後も系列ホームと連携し、3つのホームで賞味期限の時期をずらしながら、備蓄を増やしていく予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から利用者を気につけないような声かけに心掛けており、本人の誇りやプライバシーを大切にしてお返し、特に誘導時の声かけやその時の態度を注意している。	「個人情報の取扱いに関する規程」を策定し、職場内研修等で個人情報管理の確認が行われている。ご利用者に対しては年長者としての敬意を持って接しており、ご利用者の意思決定を大切にされた声かけを続けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が希望や思いを表出できるように本人に合わせてゆっくり待って声かけ、その言葉や表情等から読み取りながら自己決定を働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、その日の体調や気持ちを大切に散歩などを働きかけながらその人の希望に添った日になるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合った身だしなみや外出時のおしゃれの支援を行っている。服装に乱れがあった場合はさりげなく支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の新鮮な食材を使い、食材を話題にしながら皮をむいたり、刻んだりすることで本人が力を発揮できるようにしている。また、事業所の畑で採れた野菜を見ながら喜んで配膳し、味わった後は下膳の手伝いをお願いしている	職員が3食手作りされている。理事長が畑で収穫される野菜も美味しく、煮物、ちらし寿司なども好評である。ご利用者の方々も“もやしの根取り”や玉ねぎの皮むき、芋ツルやツワの皮むき等のお手伝いをして下さり、調理のアドバイスもして下さっている。今後もご利用者の役割を増やす予定である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量と残食を把握しておりカロリー摂取についても定期的に計算している。水分補給量も把握し、水分補給が困難な人には代替品で摂取してもらうよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとり本人の力に応じた口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持を心掛けている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を取って一人ひとりの排泄パターンを把握しており、必要に応じて声かけ誘導を行ってトイレでも排泄の自立に向けた支援をしている。	下着を着用し、排泄が自立している方や、個別の誘導でトイレで排泄できている方もおられる。入院時に紙パンツだった方も、個別の誘導等で布の下着に変更できた方もおられる。排泄時はトイレのドアやカーテンを閉め、羞恥心への配慮が続いている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の工夫、適度な運動、水分補給などにより自然排便が促されるように取り組んでいる。また、排泄記録により常に排泄パターンを確認し、必要に応じてトイレ誘導している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に一日置きになっているが、希望があれば毎日入浴できるように対応している。また、季節感を大切に、ゆず湯、菖蒲湯などを行って入浴が楽しめる工夫もしている。	入浴時は職員との会話を楽しまれ、歌も聞かされている。滑り止めマットを活用し、移動時は職員と手を繋いで安全に移動されている。シャワーのお湯かけもご自分でされる方がおられ、できる所はご自分で洗って頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを把握し、生活習慣などに応じて休息したりして、眠剤に頼らなくて安心して気持ちよく睡眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を一人ひとり整理し、目的、副作用、用法や用量について全職員が理解している。服薬時には服薬の確認を行い間違いがないかどうかを常に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その日の雰囲気やタオルたたみや新聞折り等をお願いし役立つ場面を作っている。時には、花壇への水やりや歌を唄ったり、踊ったりして賑やかに楽しく過ごせるよう工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日の天候や一人ひとりのその日の体調や希望に添って、ドライブや散歩に出かけており、夏祭りや敬老祝賀会は普段行かない場所で家族と共に楽しめるよう支援している。	気候が良い時は散歩を行い、外にテーブルを出して食事を楽しまれている。理事長が育てている野菜を眺めたり、ホーム長が育てる綺麗な花を楽しまれ、ご利用者が水やりをされている。中学校の桜や地元のツツジ、大島の菜の花等の花見を楽しまれ、系列のホームと合同の夏祭りや敬老会等に出かけ、馴染みの方と再会されている。	



自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っているとお心される方もおり、一人ひとりの希望や能力に応じた支援をしている。お金を持っている方については、その金額を家族と一緒に確認している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を受けたり、かけたりする事は本人の希望によりその都度対応している。また、電話の対応や手紙等の書き物は事務所を利用できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間が不快感を与えないように配慮し、台所の音、掃除機の音、食事のにおい等生活感が感じられ、事業所内外の環境で季節感がわかり、心地よく過ごせる環境整備を日々工夫している。	ホーム内は掃除が行き届いている。複数のソファや椅子が置かれ、ご利用者の方々が仲良く座られている。リビングで過ごされる方が多く、季節に応じて色とりどりの“花桃”等のお花を楽しまれている。1日2回、リビングや長い廊下で体操や歩行訓練、レク等が行われ、日めくりもあり、ご利用者と一緒に日付けを唱和されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間でも一人になりたい時は一人になれ、気の合った人と語らう場所をそれぞれが確保しており、それぞれ居心地よく過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の居室の空気の入替え、気に入った写真やカレンダーを貼っている。使い慣れた物の持ち込みも自由にしている。家族等が来られた時もゆっくり、くつろげるように工夫としている。	玄関の正面の居室は、入口にカーテンをかけている。タンスや置き時計、鏡や櫛などを持ち込まれ、家族の写真も飾られている。遺影も置かれており、お水や観葉植物の葉っぱ等をお供えしている。大学ノートを準備し、面会記録を書いて頂き、ご本人が面会の記憶が薄れた時に見て頂いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	暮らしの情報シートで「できること」「わかること」を把握しており、廊下やホールには余計な物を置かないで安全面に配慮し、自立した生活ができるよう工夫している。		